

手術前後における吸入薬の適正使用に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年8月7日～2020年12月31日

〔研究課題〕

周術期における吸入療法の実態調査と薬剤師による介入効果の検討

〔研究目的〕

気管支喘息、慢性閉塞肺疾患などの呼吸器疾患を持つ患者さんが手術を受ける場合、これらの疾患に関連した合併症が起きやすく、通常の患者さんより手術のリスクが高いことがわかっています。これらのリスクを減らす目的で吸入薬がしばしば処方されますが、通常の手術のない患者さんにおいて、半分以上の方で吸入薬が正しく使用出来ていないと言われてしています。本研究の目的は、今後、医療従事者、特に薬剤師が手術を受ける患者さんの吸入薬に対してどのようなサポートをしていけば良いかを明らかにするため、実態調査を行います。

〔研究意義〕

手術前後の患者さんがどのように吸入薬を使用しているか調査することで、不適切な吸入療法を防ぐ手助けになります。調査結果を元に適正な吸入療法を行うことで、呼吸疾患を持った患者さんの安全な手術が可能になると考えます。

〔対象・研究方法〕

2017年9月～2019年3月までに外科で手術を行い、かつ吸入薬が処方されている患者さんのカルテを後ろ向きに調査します。当院の薬剤師は入院時と手術後に吸入薬が適切に使用されているか確認を行っていますので、その確認内容を調査します。調査する項目は下記になります。

【患者さんの性別】【患者さんの年齢】【吸入薬の種類】【呼吸器の疾患】【吸入薬が正しく使用出来ていたか】
【吸入薬の使用期間】【過去に吸入指導を受けたことがあるか。指導を受けている方は、指導を受けた職種】
【呼吸機能】【手術は腹腔鏡もしくは胸腔鏡をもちいた低侵襲手術か】【術後に呼吸器疾患の増悪が起きたか】

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院薬剤部

〔個人情報取り扱い〕

本調査は、個人情報の取り扱いを含めその実施にあたっては帝京大学の倫理委員会の審査を受けております。また、データは ID 化され、統計的に処理しますので、調査の集計や学会発表等にあたっては個人が特定されることは絶対にありません。データの管理、保管は厳重に行い、研究終了後は、データおよび資料は 10 年間保管の後すべて廃棄します。

対象となる患者様で、データの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部附属病院 薬剤部 係員 前田光平

研究分担者: 帝京大学薬学部 臨床薬剤学研究室 教授 渡邊真知子

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 7806]